

報 告

歯科相談事業における事前アンケートの検討

高橋 摩理¹⁾, 富田かをり¹⁾, 内海 明美¹⁾, 白井 淳子²⁾
五十嵐由美子³⁾, 吉村 知恵⁴⁾, 塩津 敏子⁵⁾, 向井 美恵¹⁾

〔論文要旨〕

早期から始める歯科相談事業における子育て支援の有用性を検証し、効果的な支援方法を確立する一助とするために、食生活や歯の衛生習慣に関する事前アンケートの内容の検討を行った。

1歳児での歯磨き習慣、2歳児での甘味食品・飲料の摂取頻度などは指導・支援の必要な項目であった。「食べ方で気になることがある」と回答した保護者は1, 2歳児とも約60%にみられ、離乳の完了した2歳児においても減少していなかったことから、食べ方に対する相談を行う場が必要であり、口腔の器質的、機能的支援が可能である歯科相談事業がその役割を担う場として適当であると思われた。食べ方で気になる点と夜間授乳や飲料摂取といった生活リズムとの間に関連がみられたことから、歯科衛生面での支援も食べ方への対応に有効と考えられた。

Key words : 歯科相談事業, 食べ方の問題, アンケート

I. 緒 言

乳幼児期は離乳を通して摂食機能を学習・獲得する時期であり、顎顔面や口腔の成長発育が著しい時期でもある¹⁾。

乳幼児をもつ保護者の授乳・食事についての不安は、出産後2～3か月で減少するものの離乳開始時期から1歳前後まで継続する^{2,3)}。離乳の状況がその後の摂食機能に影響を与えるのではないかと心配する保護者も多く⁴⁾、保護者への育児支援が重要であるが、相談する場に困窮しているのも事実である⁵⁾。子どもが健康的な食習慣を身につけていくのに取り組みが必要な機関は、保育所・幼稚園・学校の次に保健所・市町村保

健センターが挙げられており⁶⁾、低年齢児において保健センター等が果たす役割は大きい。

歯科健診は幼児期の齲蝕減少に伴い⁷⁾、従来の歯科健診、口腔衛生指導以外に、口腔の機能面に対する指導・支援が求められるようになってきている。東京都某区では小児やその保護者が安心して歯の健康管理に取り組めるよう、歯科相談事業の一環として平成20年度から「歯から始める子育て支援」に関する活動を開始した。歯科相談事業は1歳および2歳に対して実施し、食べ方に関する質問項目を含んだ事前アンケートを行っている。

今回、早期から始める歯科相談事業における子育て支援の有用性を検証し、効果的な支援方法を確立する

A Study on Preliminary Questionnaire in Consultation Business on Dental Health

[2472]

Mari TAKAHASHI, Kaori TOMITA, Akemi UTSUMI, Junko SHIRAI,
Yumiko IGARASHI, Chie YOSHIMURA, Toshiko SHIOTSU, Yoshiharu MUKAI

受付 12.10.19

採用 13. 8. 9

1) 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門 (歯科医師)

2) 新宿区健康部健康推進課 (歯科医師)

3) 新宿区健康部牛込保健センター (歯科衛生士)

4) 新宿区健康部西新宿保健センター (歯科衛生士)

5) 新宿区健康部落合保健センター (歯科衛生士)

別刷請求先: 高橋摩理 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門

〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8

Tel : 03-3784-8172 Fax : 03-3784-8173

一助とするために、食生活や歯の衛生習慣に関する事前アンケートの内容の検討を行ったので報告する。

Ⅱ. 対 象

対象は平成21・22年度に歯科相談事業を受診した1歳児2,302名(平均年齢1歳0か月±0.08), 2歳児1,749名(平均年齢2歳1か月±0.05)とその保護者である。2歳児は前年度に1歳児歯科相談事業を受診している。対象地域は、東京都区内の大規模な繁華街、商業施設を含む人口約32万人、世帯数約19万世帯の地域で、単身者や夫婦二人の世帯が約65%を占め、年少人口(15歳未満)は約8.5%である。

Ⅲ. 方 法

歯科相談事業では、保護者に食生活や歯の衛生習慣に関するアンケートを事前に記入してもらい、その後、歯科医師による口腔内診査および個別相談、歯科衛生士による個別歯科衛生指導を行い、内容を歯科健診用カルテに記入している。

アンケートは歯科相談事業受診に際して受診時の日時を連絡するハガキの裏側に印刷されており(図1)、実施日に保護者の同意を得てアンケートを回収している。

表1 対象児の属性

		(名)	
		1歳児(2,302名)	2歳児(1,749名)
性別	男	1,171	887
	女	1,131	862
出生順位	第1子	1,637	1,217
	第2子以降	645	519
	未記入	20	13
同胞数	1人	1,588	1,105
	2人	552	516
	3人以上	86	77
	未記入	76	51

る。本研究は回収されたアンケート結果と歯科健診用のカルテから対象児の性別、年齢、出生順位、同胞数、萌出歯数の情報を得て行った。対象児の属性を表1に示す。

アンケート結果は項目ごとに集計を行った。甘味飲料・食品の摂取、歯磨き習慣、食べ方で気になる点については1、2歳児間の比較を行った。また、食べ方で気になる点と対象児の属性、食べ方で気になる点以外のアンケート項目との関連について検討を行った。

統計学的有意差の検定にはカイ二乗検定を用いた。統計処理はSPSS Ver.18.0を使用し、統計的な有意水

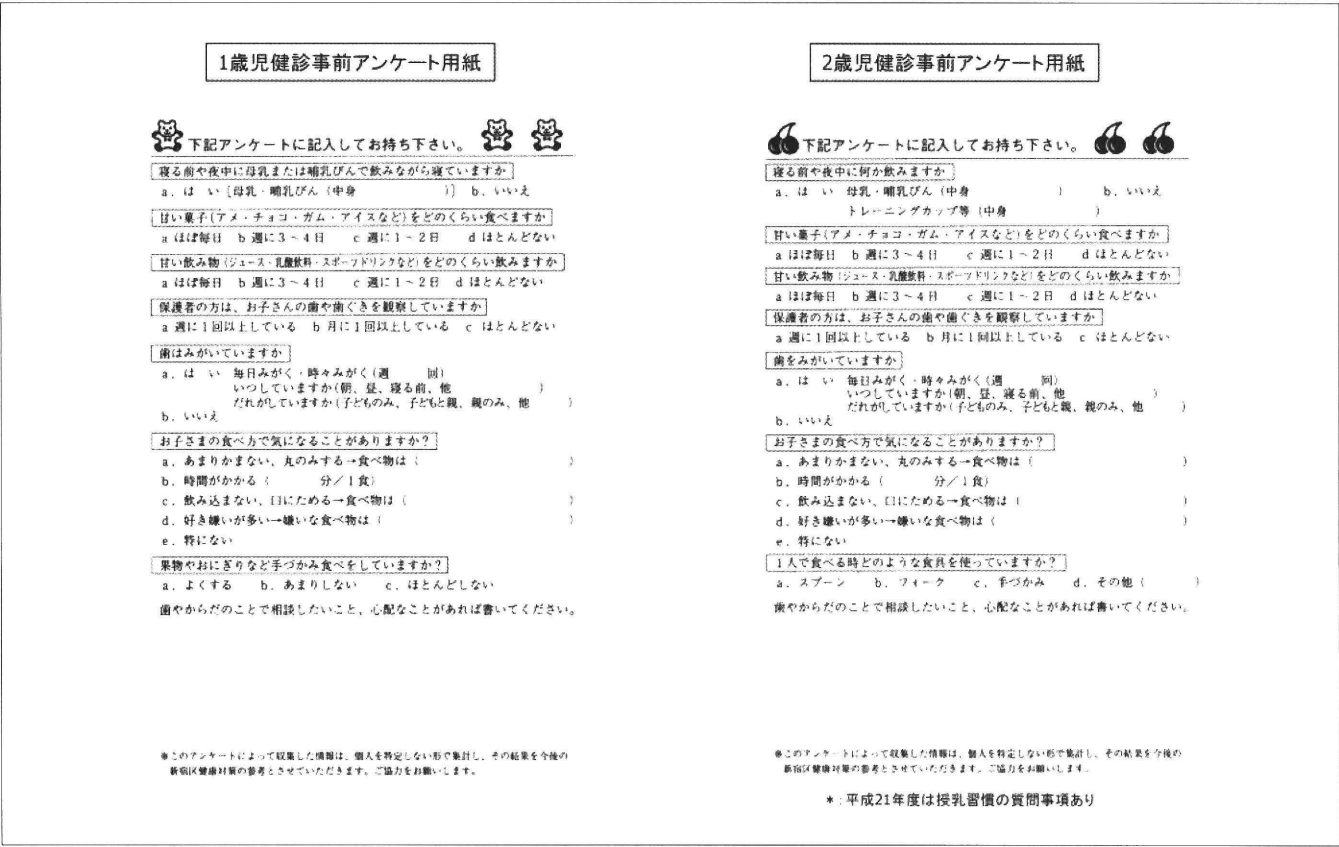


図1 アンケート用紙

表2 対象児の萌出歯数と平均月齢

1歳児 (2,302名)			2歳児 (1,749名)		
萌出歯数 (歯)	人数 (名)	平均月齢 (か月)	萌出歯数 (歯)	人数 (名)	平均月齢 (か月)
0~2	81	11.8±1.7	~15	104	24.0±0.1
3~4	212	11.9±1.3	16	1,020	24.1±0.4
5~8	1,638	12.1±0.9	17~19	461	24.1±0.5
9~12	289	12.1±0.1	20	164	24.2±0.2
13~	82	12.0±1.2			

準を5%とした。

なお、本研究は昭和大学歯学部医の倫理委員会の承認を得て行われた(承認番号2011-001)。

IV. 結 果

1. 対象児の萌出歯数

対象児の萌出歯数を表2に示す。1歳児では乳臼歯萌出前の萌出歯数8歯以下が83.9%(1,931名/2,302名中)であり、2歳児では萌出歯数16歯以上、すなわち乳臼歯が萌出している児が94.1%(1,645名/1,749名中)であった。

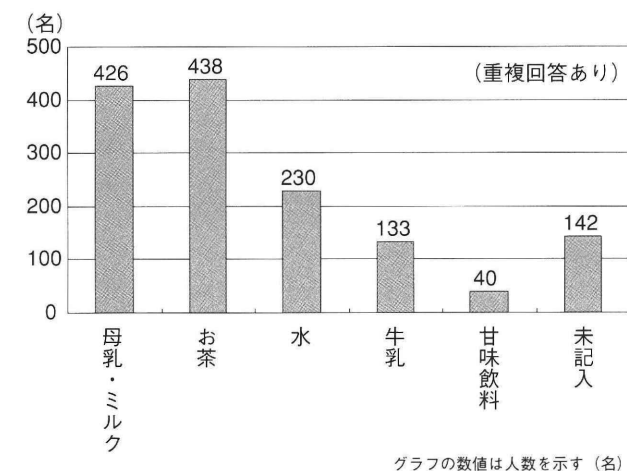


図2 寝る前・夜間の摂取飲料の内訳

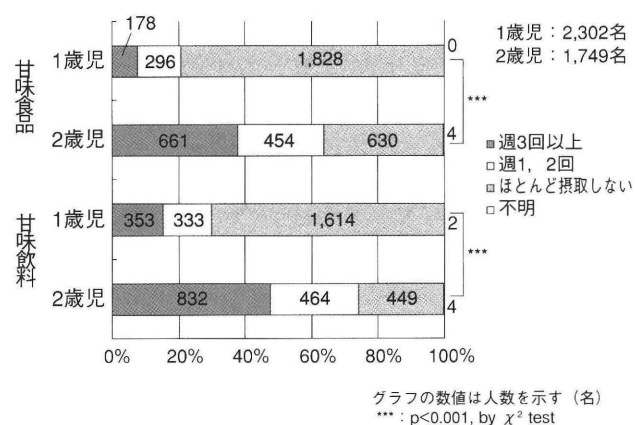


図3 甘味食品・飲料の摂取状況

2. アンケート結果

1歳児では寝る前・夜間に授乳習慣があるものは77.7%(1,789名/2,302名中), ないものは22.3%(513名/2,302名中)であった。平成21年度は2歳児に授乳習慣の有無を尋ねているが、授乳ありは26.4%(227名/860名), なしは73.5%(632名/860名中)であった(不明2名)。2歳児で寝る前・夜間の飲料摂取習慣

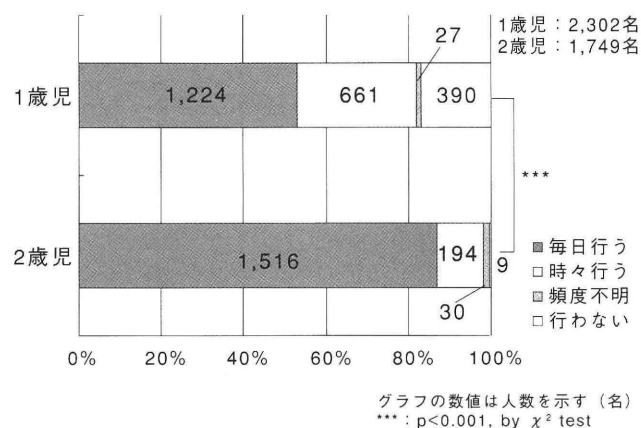


図4 歯磨き習慣の有無・頻度

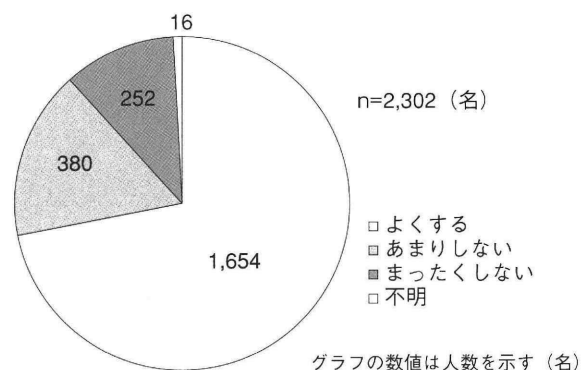


図5 手づかみ食べの頻度

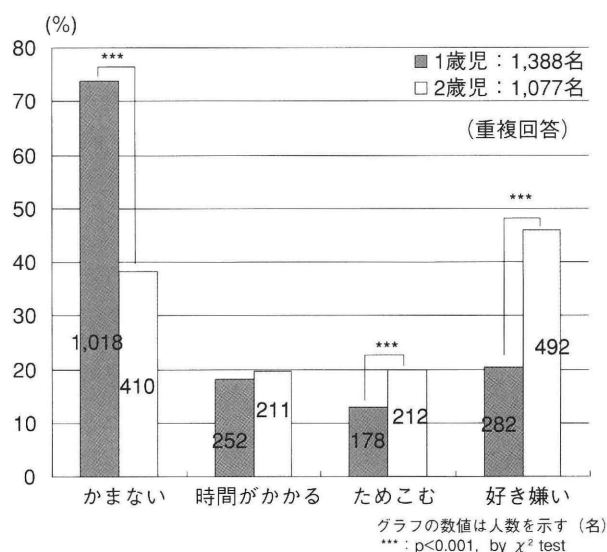


図6 食べ方で気になる点の有無

表3 食べ方で気になる点とアンケート項目の関連（1歳児）

1歳児		気になる点あり（1,388名）		気になる点なし（914名）		p値
		人数（名）	%	人数（名）	%	
性別	男	736	53.0	435	47.6	0.011
	女	652	47.0	479	52.4	
出生順位	第1子	1,078	77.7	559	61.2	<0.0001
	第2子以降	295	21.3	350	38.3	
	不明	15	1.1	5	0.5	
同胞数	1人	1,047	75.4	541	59.2	<0.0001
	2人	258	18.6	294	32.2	
	3人以上	33	2.4	53	5.8	
	不明	50	3.6	26	2.8	
歯数	2歯以下	44	3.2	37	4.0	0.433
	3～4歯	131	9.4	81	8.9	
	5～8歯	994	71.6	644	70.5	
	9～12歯	165	11.9	124	13.6	
	13歯以上	54	3.9	28	3.1	
甘味食品	週3回以上	104	7.5	74	8.1	0.679
	週1, 2回	172	12.4	124	13.6	
	ほとんど食べない	1,112	80.1	716	78.3	
甘味飲料	週3回以上	213	15.3	140	15.3	0.206
	週1, 2回	185	13.3	148	16.2	
	ほとんど飲まない	988	71.2	626	68.5	
	不明	2	0.1	0	0.0	
歯磨き習慣	毎日磨く	729	52.5	495	54.2	0.059
	時々磨く	423	30.5	238	26.0	
	頻度不明	18	1.3	9	1.0	
	磨かない	218	15.7	172	18.8	
夜間授乳	あり	1,099	79.2	690	75.5	0.038
	なし	289	20.8	224	24.5	
手づかみ食べ	する	968	69.7	686	75.1	0.018
	あまりしない	243	17.5	137	15.0	
	しない	167	12.0	85	9.3	
	不明	10	0.7	6	0.7	

by χ^2 test（不明は除いて検定を行った）

のあるものは65.3%（1,142名/1,749名中）、ないものは34.4%（601名/1,749名中）であった（不明6名）。摂取飲料の内訳を図2に示す。母乳・ミルクを摂取しているものは全体の24.4%（426名/1,749名中）であった。

甘味食品の摂取頻度は1歳児では「食べない」が79.4%（1,828名/2,302名中）であったが2歳児になると36.0%（630名/1,749名中）に減少した。週3回以上摂取しているものが2歳児では37.8%（661名/1,749名中）であり、年齢と甘味食品の摂取回数間に有意差が認められた（ $p < 0.001$ ）。甘味飲料摂取においても同様の傾向がみられた（図3）。

歯磨き習慣の有無では1歳児で毎日磨くが53.2%（1,224名/2,302名中）、磨かないが16.9%（390名/2,302

名中）であった。2歳児では毎日磨くが86.7%（1,516名/1,749名中）、磨かないが0.5%（9名/1,749名中）で、歯磨き習慣ありが2歳児に有意に多かった（ $p < 0.001$ ）（図4）。1歳児で毎日磨くものの平均萌出歯数は7.6歯、磨かないものは6.6歯で差は認められなかった。

1歳児における手づかみ食べの頻度は「よくする」が71.9%（1,654名/2,302名中）、「まったくしない」は10.9%（252名/2,302名中）であった（図5）。

3. 食べ方で気になる点の有無

食べ方で気になる点があると回答したものは1歳児60.3%（1,388名/2,302名中）、2歳児61.6%（1,077名/1,749名中）であった。項目では、1歳児では「かま

表4 食べ方で気になる点とアンケート項目の関連 (2歳児)

2歳児		気になる点あり (1,077名)		気になる点なし (672名)		p 値
		人数 (名)	%	人数 (名)	%	
性別	男	566	52.6	321	47.8	0.052
	女	511	47.4	351	52.2	
出生順位	第1子	788	73.2	429	63.8	<0.0001
	第2子以降	277	25.7	242	36.0	
	不明	12	1.1	1	0.1	
同胞数	1人	715	66.4	390	58.0	<0.0001
	2人	297	27.6	219	32.6	
	3人以上	31	2.9	46	6.8	
	不明	34	3.2	17	2.5	
歯数	15歯以下	63	5.8	41	6.1	0.816
	16歯	623	57.8	397	59.1	
	17歯以上	391	36.3	234	34.8	
甘味食品	週3回以上	389	36.1	272	40.5	0.118
	週1, 2回	279	25.9	175	26.0	
	ほとんど食べない	406	37.7	224	33.3	
	不明	3	0.3	1	0.1	
甘味飲料	週3回以上	524	48.7	308	45.8	0.224
	週1, 2回	288	26.7	176	26.2	
	ほとんど飲まない	262	24.3	187	27.8	
	不明	3	0.3	1	0.1	
歯磨き習慣	毎日磨く	932	86.5	584	86.9	0.062
	時々磨く	112	10.4	82	12.2	
	頻度不明	26	2.4	4	0.6	
	磨かない	7	0.6	2	0.3	
授乳習慣 (平成21年度のみ)	なし	414	74.1	218	72.2	0.605
	あり	144	25.8	83	27.5	
	不明	1	0.2	1	0.3	
夜間飲料摂取	なし	344	31.9	257	38.2	0.007
	あり	729	67.7	413	61.5	
	不明	4	0.4	2	0.3	

by χ^2 test (不明は除いて検定を行った)

ない、丸飲みする (以下、かまない)」が73.3% (1,018名 / 1,388名中) であった。2歳児では「好き嫌いが多い (以下、好き嫌い)」が45.7% (492名 / 1,077名中)、「かまない」は38.1% (410名 / 1,077名中) であった。1歳児と2歳児を比較すると、「かまない」は1歳児に有意に多く ($p < 0.001$)、「好き嫌い」、「飲み込まない、口にためる (以下、ためこむ)」は2歳児に有意に多い結果となった ($p < 0.001$)。「時間がかかる」は年齢による差が認められなかった (図6)。「時間がかかる」では30分以上と答えた割合は1歳児で72.2% (182名 / 252名中)、2歳児で82.5% (174名 / 211名中) であった。

4. 食べ方で気になる点と対象児の属性、アンケート項目との関連

食べ方で気になる点の有無と有意差が認められた項目は1歳児では性別、出生順位、同胞数、夜間授乳の有無、手づかみ食べる頻度であった (表3)。2歳児では出生順位、同胞数、夜間飲料摂取と食べ方で気になる点との間に有意差が認められた (表4)。

V. 考 察

歯科健診において歯の萌出は保護者の関心の強い事項である⁸⁾。乳歯の萌出は8, 9か月頃に始まり1歳児では上下乳前歯8歯萌出している割合が高い⁹⁾が、対象児の萌出歯数にはばらつきがみられた。歯の生え方

には個人差が大きいことを保護者に伝え、不安を与えないようにする必要があると思われた。

アンケート結果から、夜間・寝る前の授乳は1歳児で77.7%にみられ、2歳児においても寝る前・夜間に母乳・ミルクを摂取しているものが24.4%であった。母乳育児が虐待防止や育児不安の軽減に役立つと言われ、「母乳をやめる時期」は3歳頃でもよいという見解もある¹⁰⁾。一方、12～18か月頃になるとカロリーと栄養のほとんどが母乳や育児用ミルク以外から摂取できる状態となり¹¹⁾、母乳やミルクが食欲に影響を与えることも指摘されている¹²⁾。母乳継続の決定は保護者がすべきである。しかし、母乳ばかりを欲しがって離乳食をあまり食べないなど、離乳状況や栄養摂取状況の把握を行うべきである。また、保護者が母乳を止めさせたいが、子どもが嫌がって止められないというケースもあり、保護者の不安や困っていることに対してのアドバイスは必要と思われた。

甘味食品や甘味飲料の摂取頻度は2歳児で有意に増加していた。乳歯の齲蝕は減少しているが、平成17年度の調査では乳歯に齲蝕を持つものの割合は1歳児3.8%から2歳児17.8%と4.7倍に増加している⁷⁾。乳幼児の齲蝕に影響を与える因子の一つに甘味食品、甘味飲料の摂取が挙げられている^{13,14)}。また、甘味飲料摂取は空腹感を感じにくく食環境に影響を与えるという報告もある^{15,16)}。甘味食品・飲料の摂取が慣化していない1歳児での口腔衛生指導を丁寧に行うことにより2歳児の摂取頻度を減らすことが可能になると思われた。

歯科健診において「歯磨きを嫌がる」と訴える保護者は多く¹⁷⁾、1歳児において毎日歯を磨く習慣がないものが半数近くにみられた。歯の萌出には個人差があるものの、口腔内を観察し、口腔内の感覚体験を増やしていくこと、早期から歯ブラシに慣れさせることは歯磨きの受け入れに効果的と思われ、1歳児健診での歯磨き相談は導入として有効と考えられる。一方、口腔清掃に関して保護者と歯科医療関係者との間に認識の差があることが報告されており¹⁷⁾、保護者や乳幼児に過度の負担を与えないよう注意が必要である。また、歯ブラシによる刺傷事故も報告されている¹⁸⁾。歯ブラシを口に入れている時は保護者が目を離さないようにし、歩き回らないよう注意を与えることも重要である。

食の自立に向けた手づかみ食べの重要性が指摘されているが¹⁹⁾、手づかみ食べを行わない、あまり行わな

いものが27%みられた。手づかみ食べの機会が少ない場合について、保護者がさせていないのか本人が行わないのかという状況の把握が必要である。汚れるなどの理由から保護者が手づかみ食べをさせていない場合、小児が食事は食べさせてもらおうと認識する可能性がある。手づかみ食べは自分で食べたいという意欲につながり、手と口の協調運動を習熟する機会となり、食具操作の土台となるなど、手づかみ食べの必要性を説明する必要がある。一方本人が行わない場合は、手づかみしやすい食材を用意し、保護者の真似をさせたり、手を口に誘導するなどの介助法などの紹介が有効と思われる。

「食べ方で気になる点」があるものは1歳児、2歳児とも約60%にみられ、離乳の完了した2歳児においても減少していなかった。アンケートであるため、あくまで保護者の主観であり、実際に気になる点が食べ方の問題と一致しているわけではない。しかし、気になる点があると思っている保護者に相談できる場を提供することは重要である。また、気になる点が1歳では「かまない」、2歳では「好き嫌い」と年齢により変化していたことから年齢によって異なる対応が必要と思われた。

咀嚼機能の発達は9～11か月くらいから歯茎でつぶすことを覚え習熟していく。さらに、咀嚼した食物を舌で上顎に押しつけることで飲み込みやすい形態にまとめ、食塊を形成し送り込む機能も獲得していく。離乳開始時期や離乳食進行は月齢を目安としている場合が多く²⁰⁾、個人差の大きい歯の萌出状況を考慮していない可能性も否定できない。歯の萌出数が少ない場合は咀嚼できる食材に限度があり、「かまない」のではなく「かめない」場合も考えられる。歯科相談事業では口腔内診査も行うため、対象児の口腔内状況を把握でき、個人に合わせた指導が可能である。

また、手づかみ食べの手と口の協調運動の獲得は15か月であり²¹⁾、ほとんどの幼児が自立して上手に食べられるようになるのは3歳過ぎと報告されている¹⁹⁾。介助食では保護者が一口量やペースを調整することが可能であるが、手指機能が未熟な幼児が自食に移行する過程では、口に入る量の調整が困難で詰め込んでしまい咀嚼が行えず「かまない」結果になったとも推察できる。歯の萌出状況、食事の形態や食べ方などの問診から「かまない」理由を推察し、保護者にアドバイスを与えることが必要と思われる。

「好き嫌い」は2歳児で有意に増加していた。2歳になると自我意識の発達がみられ、第一反抗期と呼ばれる時期となる²²⁾。好き嫌いを言うことは自我の発達の一つであり²⁰⁾、そのため2歳児で「好き嫌い」が増加したと思われる。一方、2歳以降も好き嫌いを心配する保護者は多く^{8,23)}、解決に時間を要する項目でもある。また、固いなど口腔内で処理が難しい食材を保護者が嫌いと認識している可能性もある。「好き嫌い」にはさまざまな要因が関係していると思われ、嗜好や食事への関心が変化することもあり²³⁾、心配しすぎないことを伝えることも大切である。

「時間がかかる」、「ためこむ」は機能に関係するものなのか、意欲に関係するものなのかの判断が必要である。食塊形成がうまくできず咽頭部への送り込みが悪い場合は、食物が口に残り、時間がかかる結果となる。また、嫌いなものはなかなか飲み込まないという、「好き嫌い」との関連も考慮しなくてはいけない。アンケートの回答からでは判断が困難であるが、問診から機能に問題があると推察される場合は、機能評価のできる場等への紹介が必要となってくる。

「食べ方で気になる点がある」と関連の強い項目は「出生順位」、「同胞数」であり、1歳児では「性別」との関連も認められ、第1子、兄弟なし、男児に食べ方で気になる点が多い結果となった。第1子、男児の母親に育児不安が高く^{24,25)}、幼児の食行動に影響を与える要因に育児不安や精神的ストレスが挙げられている²⁶⁾。その結果、第1子や男児に食べ方で気になる点が多くなった可能性が考えられる。

1歳児の「甘味飲料」、「夜間授乳」、「手づかみ食べ」、2歳児の「夜間飲料摂取」と食べ方で気になる点の有無との間にも関連がみられた。これらは齲蝕予防の観点から口腔衛生指導として取り上げられる項目であるが、生活リズムを整えること、食に対する意欲を増すことにもつながり、食支援としても重要であることが示唆された。

今回のアンケート結果から食べ方で気になる点があると多くの保護者が訴えており、さまざまな要因が関係していることが明らかになった。歯磨き方法という器質的支援のみならず、授乳や間食摂取方法という口腔衛生指導、食べ方に関する機能的支援など多角的な対応が可能である歯科相談事業は、保護者の育児支援を行う場の一つとして有効であると思われた。また、保護者の「食べ方で気になる点」がアドバイスだけで

よいのか、機能評価を行いより高度な指導・支援が必要なのかを見極めることも歯科相談事業で行わなければいけないと思われた。

VI. 結 論

1歳児・2歳児歯科相談事業における事前アンケートを検討した結果、1歳児での歯ブラシ習慣、2歳児での甘味食品・飲料の摂取頻度などは指導・支援の必要がある項目であった。「食べ方で気になる点がある」と回答した保護者は1、2歳児とも約60%にみられ、離乳の完了した2歳児においても減少していなかったことから、食べ方に対する相談を行う場が必要である。口腔の器質的、機能的支援が可能である歯科相談事業がその役割を担う場として適当であると思われた。また、食べ方で気になる点と夜間授乳や飲料摂取といった生活リズムとの間に関連がみられたことから、歯科衛生面での支援も食べ方への対応に有効と考えられた。

本研究の一部を第58回日本小児保健協会学術集会（名古屋、2011年11月）で発表した。

文 献

- 1) 向井美恵編. 乳幼児の摂食指導. 第1版. 東京：医歯薬出版, 2000：42-99.
- 2) 厚生労働省. 平成17年度乳幼児栄養調査結果. <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/06/h0629-1.html>
- 3) 清野富久江. 子どもの栄養・食の現状と食育 「平成17年度乳幼児栄養調査」からみた子どもの栄養・食生活の状況. 小児科臨床 2008；61：1284-1290.
- 4) 土取洋子. 岡山県下の乳幼児の食生活と健康に関する調査結果（第1報）母乳保育と離乳食. 岡山県立大保健福祉紀 2004；10：31-38.
- 5) 野本たかと, 仁平暢子, 三橋 聡, 他. 某保健所における乳幼児発達支援事業 第1報各市町村における摂食相談の現状と問題点に関する事前調査. 日大口腔科学 2005；231：199-204.
- 6) 石川健太郎, 大岡貴史, 向井美恵, 他. 口腔の機能発達支援を意識した乳幼児歯科相談事業の試み. 口腔衛生学雑誌 2007；57：440.
- 7) 厚生労働省. 平成17年歯科疾患実態調査. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/62-17.html>
- 8) 大岡貴史, 弘中祥司, 向井美恵, 他. 乳幼児の食事

- や口腔内の状況に関する保護者の疑問や不安についての実態調査. 口腔衛生会誌 2011; 61: 551-562.
- 9) 日本小児歯科学会. 日本人小児における乳歯・永久歯の萌出時期に関する調査研究. 小児歯科学雑誌 1988; 26: 1-18.
 - 10) 日本小児歯科学会編. 乳幼児の口と歯の健診ガイド. 東京: 医歯薬出版株式会社, 2005: 40.
 - 11) 柳澤正義監修. 授乳・離乳の支援ガイド 実践の手引き. 東京: 母子保健事業団, 2008: 78.
 - 12) 富田かをり, 高橋摩理, 内海明美, 他. 歯科衛生相談事業における乳幼児の食べ方に関する実態調査. 第二報 食べ方相談に來所した親子の相談内容と要因の検討. 第58回日本小児保健協会講演集 2011: 212.
 - 13) 佐藤公子, 小田 慈, 下野 勉. 10か月児のう蝕の関連要因が1歳6か月児う蝕に及ぼす影響について. 小児保健研究 2008; 67: 89-95.
 - 14) 松本大輔, 広瀬弥奈, 五十嵐清治. S村保育所における乳歯の齲蝕有病状況と生活習慣との関連性について. 小児歯科学雑誌 2007; 45: 494-502.
 - 15) 菅原博子, 幸地省子. 1歳6か月児と3歳児の飲み物摂取についての比較. 小児保健研究 2007; 66: 427-434.
 - 16) 安永 徹. 質問表から分析した4ヵ月から1歳6ヵ月までの身長発育に関する因子. 成長会誌 2008; 14: 3-9.
 - 17) 馬場史子, 山口佳那子, 木村友美, 他. 福岡市早良保健福祉センターに來所した乳幼児に対する口腔内ケアの実態調査. 福岡歯科大学学会雑誌 2005; 31: 131-139.
 - 18) 日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会. Injury Alert No34歯ブラシによる刺傷. 日本小児科学会雑誌 2012; 116: 1458-1460.
 - 19) 向井美恵. 食べる機能の発達とその獲得 手づかみ食べの重要性を含めて. 臨床栄養 2007; 111: 33-36.
 - 20) 曾我部夏子, 丸山里枝子, 中村房子, 他. 都市部在住の乳幼児の口腔発達状況と食生活に関する研究 1歳2か月児歯科健診結果から. 日本公衛誌 2010; 57: 641-648.
 - 21) 千木良あき子, 石井一実, 向井美恵, 他. 手づかみ食べにおける口と手の協調の発達. 障歯誌 1998; 19: 24-32.
 - 22) 会津 力. 自己形成の発達. 深津時吉, 会津 力, 小杉洋子編著. 発達心理学. 第2版. 東京: プレーン出版, 1998: 82-94.
 - 23) 吉田弘道. 「食」からみた子どもの進路発達. 外来小児科 2008; 11: 172-181.
 - 24) 榎本妙子, 福本 恵, 堀井節子, 他. 育児不安の実態と関連要因の検討(第2報) 育児不安測定項目の因子分析. 京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要 1990; 8: 163-172.
 - 25) 桑名佳代子, 細川 徹. 1歳6ヵ月児をもつ親の育児ストレス(1). 東北大学大学院教育学研究科研究年報 2007; 56: 247-263.
 - 26) 長谷川智子, 今田純雄. 幼児の食行動の問題と母子関係についての因果モデルの検討. 小児保健研究 2004; 63: 626-634.

[Summary]

We have examined the contents of the preliminary questionnaire on diet and dental hygiene habits. Its purpose is to know whether it is valid to support parenting dental consultation project. And one objective is to establish a more effective support.

In 1-year-olds we had to teach toothbrushing habits and in 2-year-olds, we had to tell us about the frequency of eating something sweet.

Approximately 60% of parents of 1 and 2 year old children answered "have some concerns about eating manners". Mothers are in need an place to talk about the problem of how to eat. Then it is suggested that oral examination project is required which enables support mechanically and functionally.

Additionally, there is a relationship between issues about eating manners and life rhythm such as night feeding and drink intake. Dental hygiene instruction was considered as an effective method for the Counseling for eating.

[Key words]

dental consultation project, eating function, a questionnaire survey